

「揃物」の視点による楊洲周延全体像の考究

— 明治浮世絵の社会科学的考察試論Ⅱ —

真 水 康 樹

はじめに

- 一、周延「揃物」の規模による分類
- 二、周延作品の「前半期」「過渡期」「後半期」と「揃物」
- 三、分類項目内における「揃物」間の比較考察：「徳川時代」など
むすびにかえて

はじめに

本稿は、楊洲周延の作品の中からいわゆる「揃物」に焦点をあてて考察をおこなおうとするものである。まず、基本的な情報の整理をおこなうこととし、周延の揃物が全体でいったいどれだけの点数存在するのか、また、どのような規模で分布して存在し、彼の制作生涯のなかでどのように分布しているのかなどについて、情報を整理して分析する。また、周延作品の時代区分の問題に関心を向け、前半期と後半期、そして、その間に位置する過渡期の存在についても考察をおこなう。最終的には、周延作品のおよそ半数弱を占める揃物の分析をつうじて、周延の特定の作品群について、その時代的変遷や影響、継承関係について、限定的な検討をおこなうこととする。これらはもちろん、社会科学的考察のための基礎作業の一部となる。

以下では、まず、周延の揃物について規模による分類をおこない、「大規模揃物」、「中規模揃物」、「小規模揃物」の3区分を提示する。後述するとおり、大規模揃物群は11組、中規模揃物群は21組、小規模揃物群は46組と想定することになる。小規模揃物は今後もまだ見つかるかも知れないが、それでも、本稿の検討によって、周延の「揃物」またそれに類するシリーズ性のある作品群についての概要は整理できたと考える次第である。

つぎに、周延の揃物を「前半期」「過渡期」「後半期」に応じて分類する。こうすることで、揃物の分布する時代の作品の特徴を、分類項目によってできるだけ包括的に示すことができる。そこでは、前半期と後半期をとおして存在する揃物の分類項目もあれば、前半期寄り、後半期寄りそれぞれの特徴を持つ分類項目も存在する。また特に、「過渡期」については、過渡期を特徴付ける版元、さらに、過渡期を特徴づける揃物群などに着目して、楊洲周延の「揃物」について、周延作品の時期区分の観点から巨視的なアプローチをすることになる。

最後に、分類項目ごとの時代区分と関連した分布について考察をおこなう。そのことによって、同じ分類項目に属する揃物作品のなかで、時代を超えた分布に着目して、一定の継承・影響関係などについて考察する枠組みを提供することになる。ここでは特に、過渡期の作品である『温故東の花』と後半期の作品である『千代田之御表』との関係を事例にとりあげて、簡単な検討をおこなう。

このような分析をつうじて、最終的には、周延作品において「揃物」のもつ重みの程度、および、「揃物」からどこまで周延を語りうるのか、という問いに答えることとしたい。

一、周延「揃物」の規模による分類

「揃物」は、その概念そのものが難しい。概念自体の問題でいえば厳密

には「組物」との関係も検討する必要がある。慣例化した基準に、分類作業の実体験を加味して、揃物を定義づける基準を考えると以下のように整理することができるだろうか。(1) 共通の「外題」、(2) 「通番の存在」、(3) 「目次 [目録] の有無」、(4) 「画題の共通性」、(5) 「統一された主題」、(6) 「版元の統一性」、(7) 「比較的近い時期に集中して版行されている」こと、(8) 「3点以上」などを指摘することができるだろうか。(1) (2) (3) (6) (7) の基準、或いは (1) (6) (7) の基準を満たしているケースが最も典型的な揃物といえるのかも知れない。(1) (2) が最も確実な形式的基準である一方、(3) は後付けであることもないではない。また、(2) は決して多数派とはいいがたい。

(1) (2) (3) がなく、(4) (5) の基準だけの場合は、(6) (7) の基準によって疑念が生じることもある。5年以上にまたがって版行され、版元もバラバラとなると揃物として版行する意図が存在したかどうかには疑念が生じることにもなる。なお、本稿では、考察の範囲を広く保つという視点から、基準 (8) は少し柔軟に解釈し「2点以上」から考察の対象とすることとする。

【表1 楊洲周延・規模（大中小）による揃物概観】を参照されたい。筆者はここで「揃物」の可能性をもつ作品群を網羅的に示してある。その上で、周延の揃物を、その規模の観点からとりあえず、以下の (a) (b) (c) の3つに分類する。(a) 大規模揃物群（作品数が30点以上50点前後）、(b) 中規模揃物群（12点以上29点まで）、(c) 小規模揃物群（2点以上11点まで）。なお、(d) は揃物であることが想定されるが、現状では1点しか作品が確認できない作品群であり、(e) は作品数は12点とカウントできるものの、元図は1枚に4点プリントされた3枚続作品と認識でき、本稿での「揃物」にはカウントしない作品群である^[1]。

上記の分類で最も問題となるのは、(c35) から (c44) までの2枚組の10組であろう。一般に揃物と認定されるミニマムの条件である3点を超えていないからである。ただ、すでに2点が確認されており、3点目がない

表1 楊洲周延・規模（大・中・小）による揃物概観

| 規模 | | 作品点数 | 版行年 | 前半・ 後半期 | 版元 |
|---------------------------------|-----------------|--------|-----------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| (a)「30点以上50 点前後」(大規模 揃物群) | | | | | |
| | 1『(前期)雪月花』 | 50 | 1884-1885 | 前半期 | 小林鉄次郎 |
| | 2『東錦昼夜競』 | 50 | 1886 | 前半期 | 小林鉄次郎 ^{註1} |
| | 3『時代かがみ』 | 50 | 1896 | 後半期 | 松木平吉 |
| | 4『江戸錦』 | 46(+?) | 1902-1904 | 後半期 | 松木平吉 |
| | 5『千代田之大奥』 | 40 | 1894-1896 | 後半期 | 福田初次郎 |
| | 6『徳川時代貴婦人之図』 | 39 | 1894-1898 | 後半期 | 長谷川常次郎 |
| | 7『真美人』 | 36 | 1897-1901 | 後半期 | 秋山武右衛門 |
| | 8『(後期)雪月花』 | 36 | 1897-1901 | 後半期 | 松木平吉 ^{註2} |
| | 9『千代田之御表』 | 32 | 1897 | 後半期 | 福田初次郎 |
| | 10『名誉色咲分』 | 30 | 1883-1884 | 前半期 | 小林鉄次郎 |
| | 11『東風俗福つくし』 | 30 | 1889-1890 | 過渡期 | 武川卯之吉 |
| (b)「12点以上 29点まで」(中規 模揃物群) | | | | | |
| | 1『二十四孝見立図合』 | 24 | 1889-1890 | 過渡期 | 長谷川常次郎 |
| | 2『あづま』 | 24 | 1896 | 後半期 | 福田初次郎 |
| | 3『教育日本歴史』 | 24 | 1898-1899 | 後半期 | 福田初次郎 |
| | 4『東京花競』 | 20 | 1879 | 前半期 | 林吉蔵 |
| | 5『本朝武勇鑑』 | 20 | 1882 | 前半期 | 綱島亀吉 |
| | 6『女礼式』 | 19 | 1888-1895 | 過渡期～ | 横山良八、横 山国松、綱島 亀吉、武川卯 之吉、福田初 次郎、樋口銀 太郎、小森宗 次郎、辻岡文 助、堤吉兵衛、武川清吉 |
| | 7『幻燈写心競』 | 18 | 1889-1890 | 過渡期 | 横山良八 |
| | 8『艶姿娯集余情 月・雪・花』 | 16 | 不明 | 前半期 | 不明 |
| | 9『源平盛衰記』 | 15 | 1885 | 前半期 | 綱島亀吉 |
| | 10『日本名女咄』 | 15 | 1893-1894 | 後半期 | 武川清吉 |
| | 11『徳川家系略記』 | 3(+a) | 1886 | 前半期 | 小宮山昇平 |
| | 12『竹のひと節』 | 14(+?) | 1897-1905 | 後半期 | 松木平吉 |
| | 13『婦人風俗鏡』 | 13 | 1895-1896 | 後半期 | 福田初次郎 |
| | 14『東風俗年中行事』 | 12 | 1889 | 過渡期 | 長谷川園吉 |
| | 15『江戸風俗十二ヶ月』 | 12 | 1889-1890 | 過渡期 | 横山良八 |
| | 16『見立十二支』 | 12 | 1893 | 過渡期 | 森本順三郎 |
| | 17『名勝美人会』 | 12 | 1898 | 後半期 | 松木平吉 |

| 規模 | | 作品点数 | 版行年 | 前半・ 後半期 | 版元 |
|--------------------------------|----------------|----------|-----------|-------------|------------------------------------------------------------|
| 18 | 『十二月之内』 | 3 (+ a) | 1898 | 後半期 | 近藤常吉(2) |
| 19 | 『あづま [安津末] 風俗』 | 12 | 1901 | 後半期 | 松本平吉 |
| 20 | 『幼稚苑』 | 12 | 1905 | 後半期 | 松本平吉 |
| 21 | 『美術東錦絵 十二ひと絵』 | 12 | 1906 | 後半期 | 奈良沢健次郎 |
| (c)「2点以上11 点まで」(小規模 揃物群) | | | | | |
| 1 | 『四季花狂言見立』 | 11 (+ ?) | 1895 | 後半期 | 辻岡文助 |
| 2 | 『婦人諸礼式之図』 | 11 (+ ?) | 1895-1905 | 後半期 | 勝木吉勝 |
| 3 | 『馬琴著述』 | 10 (+ ?) | 1891-1892 | 過渡期 | 森本順三郎 |
| 4 | 『東京名所』 | 9 (+ ?) | 1901-1903 | 後半期 | 勝木吉勝 |
| 5 | 『雪月花之内』 | 8 (+ ?) | 1881-1897 | 前半期～ 後半期 | 柏木延一郎 (3), 大倉四 郎兵衛(2), 長谷川常次郎 (1), 横山国 松(1) |
| 6 | 『戦地八景』 | 8 | 1877- | 前半期 | 大山定右衛門 |
| 7 | 『東姿 四季の詠』 | 8 (+ ?) | 1879-1881 | 前半期 | 松下常信 |
| 8 | 『東京名所競』 | 8 | 1879-1896 | 前半期～ 過渡期 | 三浦武明(3), 山村鑪次郎 (4), 井上茂 兵衛 |
| 9 | 『善悪両頭教訓鑑』 | 8 | 1882 | 前半期 | 大倉四郎兵衛 |
| 10 | 『今様東京八景』 | 8 | 1888 | 過渡期 | 長谷川園吉 |
| 11 | 『温故東の花』 | 7 | 1889 | 過渡期 | 江川八左衛門 |
| 12 | 『日清戦争+記・画・之図』 | 7 | 1895 | 後半期 | 樋口銀太郎, 井上茂兵衛, 堤吉兵衛, 牧 金之助, 綱島 亀吉, 三宅半 四郎 |
| 13 | 『七曜之内』 | 2 (+ a) | 1896 | 後半期 | 長谷川園吉 |
| 14 | 『江戸砂子年中行事』 | 6 | 1885-1890 | 過渡期 | 森本順三郎 |
| 15 | 『今様の美人』 | 6 | 1895 | 後半期 | 長谷川寿美 (2) |
| 16 | 『全盛廓』 | 5 | 1883-1888 | 前半期 | 小林鉄次郎, 松野定七, 並 川善六, 大島 富三郎, 長谷 川園吉 |
| 17 | 『当春姿見競』 | 5 | 1887 | 過渡期 | 井上茂兵衛 |
| 18 | 『四季の詠』 | 5 | 1894-1895 | 後半期 | 樋口銀太郎 |
| 19 | 『日本歴史教訓画』 | 5 | 1897 | 後半期 | 綱島亀吉 |

| 規模 | | 作品点数 | 版行年 | 前半・ 後半期 | 版元 |
|-----|----------------------------------------------------|---------|-----------|-------------|--------------------------|
| 20 | 『鹿兒島銘々傳』 | 4 (+ ?) | 1877-1878 | 前半期 | 小森宗次郎 |
| 21 | 『花姿美人揃』 | 4 | 1881-1885 | 前半期 | 小宮山昇平 |
| 22 | 『富嶽集』 | 4 | 1887-1891 | 過渡期 | 小林鉄次郎 |
| 23 | 『西園雅集』 | 4 | 1892-1894 | 過渡期 | 長谷川園吉 |
| 24 | 『鹿兒島勇婦傳』 | 3 (+ ?) | 1877- | 前半期 | 山村金三郎 |
| 25 | 『蚕養製ノ図』 | 3 | 1880 | 前半期 | 三浦武明 |
| 26 | 『英銘武将之図』 | 3 | 1880 | 前半期 | 三浦武明 |
| 27 | 『あづま鑑』 | 3 (+ ?) | 1892 | 過渡期 | 村上剛 |
| 28 | 『倭風俗』 | 3 | 1892-1893 | 過渡期 | 森本順三郎 |
| 29 | 『やまと風俗』 | 3 | 1892-1894 | 過渡期 | 森本順三郎 |
| 30 | 『日清戦争之内』 | 3 | 1895 | 後半期 | 樋口銀太郎, 堤吉兵衛 |
| 31 | 『花鳥風月』 | 3 | 1895 | 後半期 | 横山良八 |
| 32 | 『松竹梅』 | 3 | 1895-1896 | 後半期 | 小森宗次郎 |
| 33 | 『美人観桜・梅・菊之図』 | 3 | 1897-1898 | 後半期 | 樋口銀太郎, 坂口忠治郎 |
| 34 | 『あ付ま美人』 | 3 | 1903-1904 | 後半期 | 並川善六, 勝 木吉勝, 松木 平吉 |
| 35 | 『廓花全盛鏡』 | 2 | 1879-1889 | 前半期~ 過渡期 | 森本順三郎 |
| 36 | 『今様美人鏡』 | 2 | 1881 | 前半期 | 波多野常定 |
| 37 | 『開化美人鏡』 | 2 | 1888-1889 | 過渡期 | 森本順三郎 |
| 38 | 『日光名所』 | 2 | 1888-1891 | 過渡期 | 森本順三郎 |
| 39 | 『松乃栄』 | 2 | 1889 | 過渡期 | 尾関トヨ |
| 40 | 『四季遊』 | 2 | 1893 | 過渡期 | 松木平吉 |
| 41 | 『日清戦争図絵』 | 2 | 1894 | 後半期 | 牧金之助 |
| 42 | 『花鳥風月』 | 2 | 1895 | 後半期 | 松木平吉 |
| 43 | 『園中のみみち・うめ』 | 2 | 1895 | 後半期 | 牧金之助 |
| 44 | 『今とむかし』 | 2 (+ ?) | 1897 | 後半期 | 長谷川常次郎 |
| 45 | 『開化教育鞠唄 (上・下)』 | 2 | 不明 | 前半期 | 在田江次 |
| 46 | 『徳川家累代鏡 (上・下)』 | 2 | 1879 | 前半期 | 網島亀吉 |
| (d) | 揃物の可能性 があるものの、 現状では1点し か作品が確認さ れていないもの | | | | |
| 1 | 『日本三景之内』 | 1 | 1880 | 前半期 | 真下常信 |
| 2 | 『養蚕図会』 (『第一之図』) | 1 | 1886 | 前半期 | 長谷川園吉 |
| 3 | 『日蓮大士御真実傳 第1集』 固瀬滝の口 沙汰難の図 | 1 | 1889 | 過渡期 | 江川八左衛門 |
| 4 | 『幕府時代』 | 1 | 1889 | 過渡期 | 横山良八 |
| 5 | 『葵乃栄』 | 1 | 1889 | 過渡期 | 柏木延一郎 |

| 規模 | | 作品点数 | 版行年 | 前半・後半期 | 版元 |
|---------------------------|-----------------|------|------|--------|-------------|
| 6 | 『全国勝景之内』陸前松島之景 | 1 | 1892 | 過渡期 | 長谷川園吉 |
| 7 | 『大和風俗』金閣寺拝見 | 1 | 1893 | 後半期 | 長谷川園吉 |
| 8 | 『東美術』須磨浦 | 1 | 1896 | 後半期 | 矢沢久吉 |
| 9 | 『大日本国誌略之内』巴御前 | 1 | 1899 | 後半期 | 森本順三郎 |
| (e) 12図あるものの3枚統の1図として扱うもの | | | | | |
| 1 | 『忠臣蔵』（3枚、12図） | 1 | 不明 | 不明 | 不明 |
| 2 | 『本朝皇統記』（3枚、12図） | 1 | 1878 | 前半期 | 岡山市兵衛、木村福次郎 |

凡例 1. (+ a) はさらに作品が存在する蓋然性が論理的に高いもの。総数と順位は論理的に推定される総数にもとづいて決定してある。

2. (+ ?) は経験上・見聞上さらに作品が存在する可能性があるもの。

3. (b) (c) における版元名後の（数字）は当該版元の版行点数。

註 1. 本稿67頁 (a2) を参照されたい。

註 2. 本稿68頁 (a8) を参照されたい。

とは必ずしも断定できない。とりあえずは、検討対象として加えておくことにデメリットは考え難いので、候補という意味を込めて小規模揃物群に含める扱いとする。(c45) と (c46) は、上／下の区別がついているケースである。これらは明らかに2点止まりであるので、厳密に「揃物」と呼びうるかについては異論がありうるが、分析に影響をあたえるとは思われないので、特に排除しないこととする（ここで取り上げずにおくことで、存在が忘れられてしまうことをむしろ惜しむのである）。

なお、ここで数点、補論として検討しておきたいことがある。それは、「揃物」とみなすには、やや判断が難しく、境界線上にある作品群である。それは、『女礼式』『雪月花之内』『東京名所競』『日清戦争+記、画、之図』『全盛廓』の5組である。【表2 疑似「揃物」詳細情報一覧】を参照されたい。5組とも、画題に共通性があり、共通の主題がある。ところが、早い作品から遅い作品まで、版行時点の開きが極めて長く、相当に長い期間にわたっている（『日清戦争』を除く）。『雪月花之内』は16年、『東京名所競』は17年におよぶ。また、何より担当した版元がバラバラで統一性

に欠ける。『全盛廓』は5年間と短い方だが、それでもわずか5点の作品に対し、版行期間はかなり長く、版元には統一性がまったくない。

『女礼式』については、「女礼式」という画題のものが6点、「女礼式之図」が2点、「女礼式之内」は3点、「女礼式略図」は5点（そのうち「略図女礼式」が1点）、計16点確認できる。その他に、「婦女礼式図解」「倭風俗女礼式」「やまと風俗 女礼式」がそれぞれ1点で、計3点。これで総計19点としてあつまっている。その他に、スゴロク1点と英語によるちりめん本1点（所収の図は表紙・扉絵を含めて全9点）、を含めるなら、「女礼式」の文字が入った作品は全部で21（29）点確認でき、11名の版元がかかわっている。13年にわたって版行されているが、この『女礼式』を揃物と認定できるかについてはなお検討を要するところであろう。しかし、他方、まったく何も言及せず放置するのは混乱を棚ざらしすることでもある。ここでは敢えてリストに残すことで将来の識者の判断に委ねることとさせて頂きたい。

『雪月花之内』と題する作品は8点確認できる（「源平 雪月花之内 花」という明らかに異質の作品をいれると9点となる）。版元は4人確認され、版元不明の作品もある。16年にわたって版行されており、ここでは「女礼式」と同じ理由で、一定の留保を付けた上で取り上げることとする。

『東京名所競』は版元には比較的統一性があるが、8点につき17年もの版行年の時間差があるところがなお検討を要するところである。

日清戦争に関する作品は60点以上が確認されており、その限りで主題の統一性を指摘することは可能であるが、すべてをもって揃物とみなすのには無理がある。いまのところ総数で2点しか確認できていないが『日清戦争図絵』という外題をはっきりともっている1枚続の揃物が存在する。また、その他は3枚続であるが、『日清戦争之内』が3点ある。この3点はいずれも、画題は「巻物」を模したデザインの画題スペースに書かれている。同様の巻物スタイルの画題スペースを使ったものに『日清戦争』『日清戦争記』『日清戦争画』『日清戦争之図』など、あわせて7点がある。つ

表2 疑似「挿物」詳細情報一覧

| | 作品名 | 版行年 | 版行月日 | 版元 | 所蔵番号 |
|-------|---------------------------|------------|-----------|--------|---------|
| 『女礼式』 | | | | | |
| 1 | 女礼式ノ内 茶之湯ノ図 | 明治21年/1888 | 11/1 | 横山国松 | 0650 |
| 2 | 婦女礼式図解（中：裁縫指導） | 明治23年/1890 | 2月・2月 | 網島亀吉 | 0296 |
| 3 | 女礼式裁縫之図 | 明治23年/1890 | — | 武川卯之吉 | 0149 |
| 4 | 女礼式給仕之図 | 明治23年/1890 | — | 武川卯之吉 | 0333 |
| 5 | 女礼式書画之図（中：布袋図） | 明治24年/1891 | — | 武川卯之吉 | 0067 |
| 6 | 倭風俗女礼式（左：黒棚，中：掛軸・活花、右：衝立） | 明治25年/1892 | 4/20・4/31 | 森本順三郎 | 0072 |
| 7 | やまと風俗 女礼式（左：盆栽，中・右：茶と菓子） | 明治25年/1892 | 4月 | 森本順三郎 | 0188 |
| 8 | 女礼式略図（漆膳×5，床の間に梅） | 明治25年/1892 | — | 武川卯之吉 | 0020 |
| 9 | 女礼式之内（客を座蒲へ） | 明治26年/1893 | 2/1・2/6 | 樋口銀太郎 | 1404 |
| 10 | 女礼式之内 茶之湯活花（赤いカーペット） | 明治26年/1893 | 2/18・2/20 | 樋口銀太郎 | 0066 |
| 11 | 女礼式之図（左：蠟燭×2，中：琴） | 明治26年/1893 | 4/18・4/20 | 樋口銀太郎 | 0013 |
| 12 | 女礼式略図（左：女性2，中・右：秋七草屏風） | 明治26年/1893 | — | 長谷川常二郎 | 1979 |
| 13 | 女礼式 操の対幅 | 明治28年/1895 | 9月 | 長谷川園吉 | 0258 |
| 14 | 略図女礼式 | 明治28年/1895 | 11月 | 辻岡文助 | 0727 |
| 15 | 女礼式 茶の湯（中：炉，右：茶を点てる女性） | 明治34年/1901 | — | 堤吉兵衛 | 1717 |
| 16 | 女礼式略図（各画面女性2人，右：灯籠と桜） | — | — | 武川 | 0021 |
| 17 | 女礼式略図 婚礼 | — | — | 武川清吉 | 0053 |
| 18 | 女礼式之図（各画面女性3人，中・右：牡丹の屏風） | — | — | 武川卯之吉 | 0084 |
| 19 | 女礼式 茶の湯（左：囲碁，右：茶釜と菊の屏風） | — | — | 武川卯之吉 | 0101 |
| | 女礼式教育寿語録（スゴロク） | 明治21年/1888 | 6月・6月 | 横山国松 | 3227 |
| | 女禮式（ちりめん本，9図） | 明治29年/1896 | — | 秋山愛三郎 | 3361-69 |

註：最後の「スゴロク」と「ちりめん本」は参考情報

『雪月花之内』

| | | | | | |
|---|-----------------|------------|-------------|--------|------|
| 1 | 雪月花之内 桜花遊覧 | 明治14年/1881 | 2/15 | 大倉孫兵衛 | 0356 |
| 2 | 雪月花之内 梅園之月 | 明治17年/1884 | 12月 | 大倉孫兵衛 | 0692 |
| 3 | 雪月花之内 夜桜の風景 | 明治24年/1891 | 4月 | 柏木延一郎 | 0335 |
| 4 | 雪月花之内 別荘の月 | 明治24年/1891 | 9月 | 柏木延一郎 | 0173 |
| 5 | 雪月花之内 川連之（つれし）雪 | 明治24年/1891 | 11月 | 柏木延一郎 | 0288 |
| 6 | 雪月花之内 瀑布の月 | 明治28年/1895 | 12/20・12/27 | 横山国松 | 1090 |
| 7 | 雪月花之内 月 | 明治30年/1897 | 2月 | 長谷川常治郎 | 0803 |
| 8 | 雪月花之内 雪 | — | — | — | 0510 |

| | 作品名 | 版行年 | 版行月日 | 版元 | 所蔵番号 |
|--|------------|-----|------|-------|------|
| | 源平 雪月花之内 花 | — | — | 深瀬亀治郎 | 1170 |

註：最後の「源平 雪月花之内 花」は参考情報

『東京名所競』

| | | | | | |
|---|----------------|------------|-----------|-------|------|
| 1 | 東京名所競 芝愛宕山ヨリ眺望 | 明治12年/1879 | 3月 | 三浦武明 | 1734 |
| 2 | 東京名所競 新よし原 | 明治14年/1881 | 3月 | 三浦武明 | 1691 |
| 3 | 東京名所競 金龍山浅草寺 | 明治15年/1882 | 3月 | 三浦武明 | 1870 |
| 4 | 東京名所競 靖国神社 | 明治15年/1882 | 3月 | 山村鑛次郎 | 1542 |
| 5 | 東京名所競 銀座通煉瓦造 | 明治15年/1882 | 3月 | 山村鑛次郎 | 2113 |
| 6 | 東京名所競 第一国立銀行 | 明治23年/1890 | 3月 | 山村鑛次郎 | 1317 |
| 7 | 東京名所競 上野東照宮 | 明治29年/1896 | 12/1・12/3 | 伊勢屋 | 0759 |
| 8 | 東京名所競 水天宮 | — | — | 山村鑛次郎 | 1585 |

『日清戦争之内』と『日清戦争+記・画・之図』

| | | | | | |
|----|--------------------------|------------|----------|-------|------|
| 1 | 日清戦争之内（威海衛攻撃・占領図） | 明治28年/1895 | 2月 | 樋口銀太郎 | 1579 |
| 2 | 日清戦争之内（故陸軍少将大寺安純君） | 明治28年/1895 | 2月・2月 | 堤吉兵衛 | 1699 |
| 3 | 日清戦争之内（威海衛付近荣城湾） | 明治28年/1895 | 2月・2月 | — | 1716 |
| 4 | 日清戦争 台湾占領之図 | 明治28年/1895 | — | 井上茂兵衛 | 1092 |
| 5 | 日清戦争（我軍水雷艇劉公島南方ヨリ敵艦ヲ轟沈ス） | — | — | — | 1198 |
| 6 | 日清戦争 威海衛大激戦（故陸軍少将大寺安純君） | 明治28年/1895 | 2月 | 堤吉兵衛 | 1266 |
| 7 | 日清戦争（陸軍中将佐久間左馬太君） | — | — | — | 1267 |
| 8 | 日清戦争記（威海衛城進入・砲台占領） | 明治28年/1895 | 3/6・3/11 | 牧金之助 | 0854 |
| 9 | 日清戦争画（我陸海軍大挙而劉公島攻撃之図） | 明治28年/1895 | 3月 | 網島亀吉 | 1096 |
| 10 | 日清戦争之図（威海衛攻撃決死隊荣城湾ニ奮闘之図） | 明治28年/1895 | 3月・3月 | 三宅半四郎 | 1432 |

『全盛廓』

| | | | | | |
|---|-------------------------------|------------|-----------|-------|------|
| 1 | 全盛廓賑ひ（中から右：大楼廓建物、芸妓11名） | 明治16年/1883 | 8/9 | 小林鉄次郎 | 0739 |
| 2 | 全盛廓の黄金撒き | 明治19年/1886 | — | 松野定七 | 0676 |
| 3 | 全盛廓の梅 | 明治21年/1888 | 2/20・2/28 | 並川善六 | 0401 |
| 4 | 全盛廓乃賑ひ（左：黒和服3名、中：花魁3名、右：洋装3名） | 明治21年/1888 | 4/2・4/6 | 大島富三郎 | 0829 |
| 5 | 全盛廓の賑い（花魁各画面に1名、計3名） | 明治21年/1888 | 6/1・6/2 | 長谷川園吉 | 1197 |

まり、『日清戦争之内』を合わせれば共通の巻物スタイルの画題スペースをもった日清戦争関連作品は10点となるが、これを揃物と判断しうるかには、なお躊躇が残る。【表2 疑似「揃物」詳細情報一覧】を判断根拠として提示することで、識者の判断を仰ぐこととしたい。なお、参考までに述べれば、100点を優に超える西南戦争作品のうち、『鹿児島戦記』と題する作品は13点確認され、『鹿児島征討記聞』は9点、『鹿児島征討紀聞』は5点を数える。これらも、軽々に揃物と判断することが躊躇されるケースである。

『全盛廓賑ひ』『全盛廓の黄金撒き』『全盛廓の梅』『全盛廓乃賑ひ』『全盛廓の賑い』の5点も画題に共通性があり同一主題であることには間違いないが、版元にも統一性がなく、版行に要した期間も5点に対して5年であり、相当に長いことが指摘できる。

論述を本筋にもどし、あらためて【表1 楊洲周延・規模（大中小）による揃物概観】を参照されたい。大規模揃物群は11組、中規模揃物群は21組、小規模揃物群は多めに見積もって46組と想定される。こうして周延の揃物は、多く見積もっても79組程度という目安をつけることができる（もちろん、d1～d9が今後加わる可能性はある）。

このように一定の目安をつけると、大規模揃物群に属する作品総数は439点、中規模揃物群は312点、小規模揃物群は2点ものも数に入れて多めに見積もって210点と算定することができる。つまり、揃物に属する作品は、総数で961点。別の言い方をすれば、周延の作品の半数程度が、揃物に属するということが、この作業から主張しうるのである。

見解や判断の変更、新しいシリーズの発見によって、多少の変動はあるかも知れないが、大規模揃物群と中規模揃物群については、このリストでほぼかなりの部分を網羅できているものと思われる。また、大方の認識ともずれはないものと考えたい。少なくとも、大規模揃物と中規模揃物についてはこのように主張することができよう。小規模揃物についても大規模な変動は予想しがたい。このように考えてみると、周延の揃物総数は、将

来、何らかの発見があるとしても、おおよそ80組くらいと想定しても大過はないのではなからうか。大中小の基準はもちろん相対的なものでしかない。ただ、このような区分を想定することで、議論や分析がしやすくなるのは確かであろう。大中小の境界線について厳密な議論をすることにあまり意味はない。周延研究のもどかしさは、いったいどれだけの数の揃物があるのか、雲を掴むような状態のところにもある。そして、それぞれの揃物が何点あるかについては、さらにもどかしい。暫定的であれ、知る限りのものを一覧にして、作品点数を参考として示しておくことは、周延研究の進展にあたって、プラスであることはあっても、マイナスになることはないと考え次第である。

大規模揃物群は、ほぼ前半期と後半期に集中している。小林鉄次郎を周延を語る上で不動の存在にしているのは、前半期の代表的な大規模揃物がすべて彼の手をへて版行されていることによる。他方、『富嶽集』という小規模揃物の形で、過渡期の初めにちらっとだけ姿をみせはするものの、揃物の観点からも、小林鉄次郎は前半期の版元だと断定することはできる。他方、後半期は、松木平吉や、福田初次郎、長谷川常次郎などの世界であることも一目瞭然であろう（後述する【表4 楊洲周延・時期区分（前半期・過渡期・後半期）による揃物分類】も参照されたい）。

他方、中規模揃物群となると、「過渡期」の比率がぐっとあがる。期間の長い後半期にはおよばないまでも前半期よりも多い版行数となる。そして、この過渡期中規模揃物群は、ほぼ間違いなく、後述する長谷川常次郎、長谷川園吉、横山良八、森本順三郎など、過渡期を特徴づける主要な版元の手に戻る（長谷川常次郎については、次稿でも言及することになるが、後半期の役割も重要である）。

小規模揃物群は、少ないものでは2点のものもあり、揃物として語る意味がどこまであるか、不確かなケースも多い。ただここでは、小規模揃物には、短い期間である過渡期の物が三分の一を超え、さらにその半数がやはり長谷川園吉、森本順三郎、江川八左衛門などの版元、特に森本順三郎

によることを確認しておけば足りる。

なお、ここで最後に、この場を借りて、それぞれの揃物について、前稿の情報更新の意味でも、各論としての解説をおこなっておくことが適切である。

(a1) (a8)『(前期) 雪月花』『(後期) 雪月花』:「雪月花」と題する揃物には、小林鉄次郎による明治17-18年(1884-1885)のもの、松木平吉による明治30-34年(1897-1901)のもの、と2種類がある。前者が「歴史」作品を中心とするのに対し、後者は「明治美人」を内容とする。一般には前者の知名度が圧倒的に高く、後者はいまひとつ知られていない。

(a2)『東錦昼夜競』の版元は小林鉄次郎とされているが、それ以外に、綱島亀吉を版元とする作品がKazuko Collectionでは3点確認されている。具体的な作品名としては、図6「浅芽ヶ下原」(御届:明治19年1月9日, [0695])、図14「鷗草葺不合尊」(御届:明治19年10月20日, [0696])、図30「吉田御殿」(御届:明治19年 月 日, [0697])である。御届の日付は全て太田記念美術館所蔵の小林鉄次郎版と同じなので、両者は同時に版行されているものと推測される^[2]。ただ現状では、綱島亀吉版の『東錦昼夜競』は上記3点が確認できるだけで、総数で何点あるのかは不明である。

(a4)『江戸錦』:Kazuko Collectionに43点。その他、郡山市美術館所蔵の「亀井家伝来資料」の中に、さらに3点の未重複作品のあることが確認されている^[3]。

(a5)『千代田之大奥』:本体が40点に加え、「富禄久(付録)」1点がある。40点のうち39点は3枚続であるが、「婚礼」のみ5枚続である。この「婚礼」図には背景を白とするものの他に、茶色を基調とするものがあることが知られている^[4]。

(a6)『徳川時代貴婦人之図』:39点が確認されている。39点のうち38点は3枚続であるが、もう1点の「筋違橋御門外寶生太夫勸進帳」のみ6枚続である。

(a8) 『(後期) 雪月花』の版元は松木平吉とされているが、それ以外に、有山定次郎を版元とする作品がKazuko Collectionでは2点確認されている。具体的な作品名としては、「浅草市」[2171] [0222] と「付き(月)」[1292] = 「月 縁日」[1359] である。「浅草市」は、有山版の御届(印刷)が明治32年1月である。これに対し、松木版の御届(印刷)は縦書き「卅」の文字とそれに続く漢数字が接近しており、二つ目の漢数字は「一」とも「二」とも解釈が可能である。したがって、同作品の御届(印刷)年月日について、「明治31年9月1日」と「明治32年9月1日」と2つの理解が可能である。前者か後者かにより、有山版と松木版の前後関係は異なることになる。また、「浅草市」は両版とも同じ画題であるが、もう1点の方は同じ画面なのに両版で画題が異なっている。「付き」と題するものが有山版で御届(印刷)が明治31年11月であるのに対し、松木版の画題は「月 縁日」であり御届(印刷)が明治32年8月10日となっている。こちらの作品では、松木版に先行して有山版が存在していたと考えるのが自然である。

(b8) 『艶姿娯集余情』：周延唯一の春画といわれる初期の作品である。「三巻本」「合本」「巻物」など少なくとも3種類の製本スタイルが存在する。「月の巻」「雪の巻」「花の巻」の順で「雪、月、花」の順ではない。春画の定番で、合計で12図となるものの、各製本の間に内容の異同があり「三巻本」では春画は10図しか掲載されていない。総合的に判断すると、春画12図の他に、2頁を使った春画と同じサイズの図が1点、1頁を使った半サイズの図が3点ということになる。したがって、『艶姿娯集余情』における周延作品は、春画12図、その他4図というのが正確な情報だと思われる。ところで、この揃物では、16図のすべてに落款がない。春画だけから周延であると判断することは容易ではないが、春画以外の女性の浴衣姿を描いた1点から、周延作と確定することがほぼ可能である。書誌的根拠としては『補訂版 国書総目録 第1巻』の517頁に「艶姿娯集余情 三冊 (類) 艶本 (著) 周延画 * 艶本目録による」とある。

(b11) 『徳川家系略記』：Kazuko Collectionの所蔵は3点であるが、総数で徳川將軍の代数である14代か15代分がありうるとするのが合理的判断であると考えられる。

(b12) 『竹のひと節』：現状では14点が確認されている。

(b16) 『婦人風俗鏡』：12図の揃物だが、Kazuko Collection所蔵の2セットにつき、1セットでは「鯉と子供」図が欠けており、別の1セットでは「活花」が欠けている。つまり、11図が共通であるほか、1図ずつ片方にしかない図があることになる。このように、少なくとも『婦人風俗鏡』には13図が存在することになる。なお、この揃物では全作品が落款をとまなっていない。

(b18) 『十二カ月之内』：Kazuko Collectionの所蔵は3点であるが、総数で12カ月分あると想定するのが合理的である。

(c1) 『四季花狂言見立』：現状では11点が確認されている。

(c2) 『婦人諸礼式之図』：「婦人諸礼式之図」が5点、「婦人諸礼式の図」が4点、「婦人諸礼式乃図」が1点、「婦人諸礼」が1点、計11点が確認されている。版元はすべて勝木吉勝である。

(c3) 『馬琴著述』は合計10点。「近世美少年録」「夢想兵衛胡蝶物語」「朝比奈三郎順島記」「南総里見八犬伝」「金魚傳」「新編金瓶梅」がそれぞれ1点、「椿説弓張月」、「質屋之庫」がそれぞれ2点というのが現状である。

(c13) 『七曜之内』：Kazuko Collectionの所蔵は2点であるが、総数で7日分あると判断するのが合理的である（もちろん、下記『四季の詠』のように「四季」でも5点あるケースもあるので軽々な断定にはなお留保が必要である）。

(c18) 『四季の詠』：「隅田川のさくら」「別荘乃花菖蒲」「小川の螢」「秋」「不忍の雪」の5点が確認されている。

(c31) 『花鳥風月』：版元は横山良八で明治美人風の作品「渡場の郭公」「嘉是（風）」「別荘の月」の3点が確認されている。3点とも明治28年（1895）版行である。

(c42) 『花鳥風月』：版元は松木平吉で王朝風の作品が2点ある。1点は版行年不明、もう1点は明治28年（1895）版行である。

(c43) 『園中のもみぢ・うめ』は「園中のもみぢ」[0009] [0031] と「園中のうめ」[0357] [0386] の2点を意味する。ともに明治28年（1895）版行、版元はともに牧金之助である。前者の御届（印刷）は明治28年9月7日、後者は同年12月21日である。なお、「園中の」で始まる作品には、この2点の他に少なくとも「園中の紅葉」（明治26年12月8日、版元：樋口銀太郎、[0029]）と「園中乃雪」（明治26年11月10日、版元：横山国松、[1067]）があり、版行年も近いが、ここでは牧金之助版行の上記2点とは別に扱うこととする。また、『千代田之大奥』に「園中の雪」、『徳川時代貴婦人之図』に「園中の瀧」がそれぞれ存在するが、別の揃物の一部であり、ここではカウントしないこととする。

(d9) 『養蚕図絵』：現状では総計で3点である。ただ、10点の可能性もある。

二、周延作品の「前半期」「過渡期」「後半期」と「揃物」

筆者は従前より、周延の作品史について、前半期と後半期の区別を主張しており、「過渡期」の存在については緩やかな主張にとどまっていた。けれども、前稿における考察などから、前半期・過渡期・後半期をそれぞれ特徴付ける版元の分布がみられることなども根拠として、「過渡期」の存在をより強く意識するようになった。周延の版元については、別稿を準備中であるが、ここでは、周延の過渡期を特徴づける版元として8名の版元の存在を指摘しておくこととする。この8名の版元の周延とのかかわりや主な版行作品などについては【表3 楊洲周延・過渡期版元の特徴】を参照されたい。

本稿では、この過渡期の8名の版元のうち特に、長谷川常次郎、森本順

表3 楊州周延・過渡期版元の特徴

| 版元名 | 作品数 | 担当した期間(1) | 担当した期間(2) | 版行の盛期 | 詳細なピーク | 担当插图 | 著名作品 | 比較的多く版行した分類項目 | 分析 |
|--------|-----|-----------|-----------|---------|-----------------|--------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 長谷川常次郎 | 72 | 1884-1900 | 17年間 | 過渡期・後半期 | 1890-1891, 1897 | 二十四孝見立図合、徳川時代貴婦人之図 | 勅命ニテ彈正少弼中国至嵯峨ニ、梅花満開之図、大婚祝典皇居御出門之図、雪のあさ | 美人大奥、明治美人 | 過渡期と後半期にピークがある。手がけた代表的な作品はやはり『二十四孝見立図合』と『徳川時代貴婦人之図』である。その『徳川時代貴婦人之図』に版行年不明のものが多いため、数値の面では多く影響を受けている。 |
| 森本順三郎 | 69 | 1877-1896 | 20年間 | 過渡期 | 1893-1894 | 見立十二支、江戸砂子年中行事 | 墨堤の渡船、やまと風俗 上野清水より不忍の眺望、上野公園の夜景、浅草公園遊覧之図、倭風俗 不忍池畔の朝露、倭風俗 公園乃雪、倭風俗 墨堤の花 | 明治美人、江戸風俗 | 過渡期直後の1893年前後に、ある意味でのピークがある。周延との接点は早く、1877年から始まり1900年まで続く。過渡期から始まる増加傾向に注目できる。単独の名品も多く手がけており、森本順三郎の手がけた作品には、抜群のセンスの良さがかがえる。 |
| 長谷川園吉 | 65 | 1878-1896 | 19年間 | 過渡期 | 1888, 1890 | 今様東京八景、東風俗年中行事、七曜之内、西園雅集 | 園模様 月の面影、多摩川乃鮎漁、今戸乃焼物、姫柳庭の涼風 | 明治美人 | 周延とのかかわりは、森本や綱島と同じように、堅実で長い。特段の起伏もない。ただ、1888年と1890年の数値の高さは注目される。『今様東京八景』は、明治美人の小分類「美人幻影」のひとつのルーツである。単独の名品も多い。 |
| 横山良八 | 49 | 1883-1895 | 13年間 | 過渡期 | 1890, 1889 | 幻燈写心鏡、江戸風俗十二カ月之内、花鳥風月 | 小学唱歌之略図、男児池上二小舟を浮む、佳人音曲之圖、花鳥風月 別荘の月、花鳥風月 嘉是(風)、花鳥風月 渡場の郭公 | 明治美人 | ほぼ過渡期のみ版行にたざざわっている。前半期にも、後半期にも版行作品はない。明治美人が多く、単独での名品も多い。 |
| 武川卯之吉 | 45 | 1881-1892 | 12年間 | 過渡期 | 1889, 1888-1891 | 東風俗福つくし | 墨田堤の雪景、別荘の曇、更科 田毎の月、美人遊梅園の図 | 明治美人、明治風俗 | 周延とかかわった期間は、それほど長くない。協力期間は過渡期とほぼ重なり、その前後には版行作品がない。 |
| 横山国松 | 20 | 1887-1895 | 9年間 | 過渡期 | | | 江戸風俗 臘春花之夜桜、園中乃雪、梅間明月、曾我十郎大藏通し図、雪月花之内 瀑布の月 | 明治美人、江戸風俗、明治風俗 | 過渡期から後半期にかけて、毎年相対的に少ない版行に関与していた。明治美人や風俗の佳作を版行している。 |
| 江川八左衛門 | 10 | 1889 | 1年間 | 過渡期 | 1889 | 温故東の花 | 欧州管絃楽合奏之図、日蓮上人 御真實傳 固瀬滝の口御法難の図 | 徳川体制 | 周延作品の版行は、1889年のみである。この年に、『温故東の花』7点と「欧州管絃楽合奏之図」などを版行している。 |
| 柏木延一郎 | 10 | 1889-1894 | 6年間 | 過渡期 | | 雪月花之内 | 葵乃栄 諸侯奥向御煤払の図、阿津満乃風俗 | 明治風俗 | 周延とのかかわりは短く、ほぼ過渡期に集中している。 |

註. 最後の『花鳥風月』2作品は插图情報と重複するが稀少作品であるため、あえて個別の作品名を明示してある。

三郎、長谷川園吉、横山良八、武川卯之吉、江川八左衛門の6名に注目することとする。この6名は、以下のような共通の特徴をもっていた。すなわち、『東風俗年中行事』『二十四孝見立図合』『幻燈写心競』『江戸風俗十二ヶ月』『見立十二支』などの中規模揃物、また『東風俗福つくし』『今様東京八景』『温故東の花』『江戸砂子年中行事』などのこれに前後に準ずる揃物の版行に従事し、明治美人、江戸風俗に関する版画の版行を手がけていた。また、6人目の江川八左衛門が版元になった『温故東の花』は総数が7点で中規模揃物のレベルには届かないものの、作品史上はその後の『千代田之御表』に連なる「徳川時代」という作品群を切り拓いたという意味をもっていた（本稿81頁を参照されたい）。

筆者は、楊洲周延に関する最初の論考において、以下のように指摘している。「周延は前半期には、『西南戦争』『御所絵』『花街』『役者絵』『歴史』『洋装美人』を画題とする作家だったのであり、この時期には『戯作（本）』も手がけた。後半は、『日清戦争』『明治美人』『美人大輿』『大写美人』の作家だったことになる」。また、それに続けて、以下のように、明治20年（1887）から明治25年（1892）の6年間を過渡期とする視点も提示していた。「明治20～23年（1887～1890）の4年間は、ともかく作品の種類が平均より多く、模索・試行錯誤期にあったことが推測される。また、明治24～25年（1891～1892）の2年間は、特に作品数が少なかった。こうして見てくると、作品の種類が特に多かった前半の最後の4年（『模索期』）を、また作品数が量的に極端に少なかった後半の最初の2年（『寡作期』）と合わせた6年間で、『4年間の過渡期』あるいは『6年間の過渡期』と認識できる可能性は存在する」⁶⁵。

【表4 楊洲周延・時期区分（前半期・過渡期・後半期）による揃物分類】を参照されたい。これは、【表1 楊洲周延・規模（大中小）による揃物概観】の揃物（a）（b）（c）について、それらを制作時期にもとづいて配列しなおしたものである。

前半期に、『西南戦争』『御所絵』『花街』の作品が多いことは容易に見

表4 楊洲周延・時期区分(前半期・過渡期・後半期)による挿物分類

| 外題 | 作品点数 | 版行年 | 前半・ 後半期 | 版元 | 分類 |
|----------------|---------|-----------|-------------|-----------------------------------------------------|-----------------------------|
| 前半期 | | | | | |
| 『艶姿娯集余情 月・雪・花』 | 14 | 不明 | 前半期 | 不明 | 春画 |
| 『開化教育鞠唄(上・下)』 | 2 | 不明 | 前半期 | 在田江次 | 明治風俗 |
| 『鹿兒島銘々傳』 | 4 (+ a) | 1877-1878 | 前半期 | 小森次郎 | 西南戦争 |
| 『鹿兒島勇婦傳』 | 3 (+ a) | 1877- | 前半期 | 山村金三郎 | 西南戦争 |
| 『戦地八景』 | 8 | 1877- | 前半期 | 大山定右衛門 | 西南戦争 |
| 『東京花鏡』 | 20 | 1879 | 前半期 | 林吉藏 | 明治風俗 |
| 『徳川家累代鏡(上・下)』 | 2 | 1879 | 前半期 | 綱島亀吉 | 徳川家 |
| 『廓花全盛鏡』 | 2 | 1879-1889 | 前半期～ 過渡期 | 森本順三郎 | 花街 |
| 『東京名所鏡』 | 8 | 1879-1896 | 前半期～ 過渡期 | 三浦武明(3), 山村 鑛次郎(4), 井上茂 兵衛 | 明治風俗 |
| 『東姿 四季の詠』 | 8 (+ ?) | 1879-1881 | 前半期 | 松下常信 | 御所絵 |
| 『蚕養製ノ図』 | 3 | 1880 | 前半期 | 三浦武明 | 御所絵(養蚕) |
| 『英銘武将之図』 | 3 | 1880 | 前半期 | 三浦武明 | 武者 |
| 『花姿美人揃』 | 4 | 1881-1885 | 前半期 | 小宮山昇平 | 御所絵 |
| 『今様美人鏡』 | 2 | 1881 | 前半期 | 波多野常定 | 御所絵 |
| 『雪月花之内』 | 8 (+ ?) | 1881-1897 | 前半期～ 後半期 | 柏木延一郎(3), 大 倉四郎兵工(2), 長 谷川常次郎(1), 横 山国松(1) | 明治美人/美人 大奥/御所絵 |
| 『本朝武勇鑑』 | 20 | 1882 | 前半期 | 綱島亀吉 | 武者 |
| 『善悪両頭教訓鑑』 | 8 | 1882 | 前半期 | 大倉四郎兵工 | 歴史 |
| 『名誉色咲分』 | 30 | 1883-1884 | 前半期 | 小林鉄次郎 | 花街 |
| 『全盛廓』 | 5 | 1883-1888 | 前半期 | 小林鉄次郎, 松野定 七, 並川善六, 大島 富三郎, 長谷川園吉 | 花街 |
| 『(前期) 雪月花』 | 50 | 1884-1885 | 前半期 | 小林鉄次郎 | 歴史 |
| 『源平盛衰記』 | 15 | 1885 | 前半期 | 綱島亀吉 | 歴史 |
| 『東錦昼夜鏡』 | 50 | 1886 | 前半期 | 小林鉄次郎 | 歴史 |
| 『徳川家系略記』 | 3 (+ a) | 1886 | 前半期 | 小宮山昇平 | 徳川家 |
| 過渡期 | | | | | |
| 『江戸砂子年中行事』 | 6 | 1885-1890 | 過渡期 | 森本順三郎 | 江戸風俗/美人 大奥/美人上代 /徳川時代 |
| 『富嶽集』 | 4 (+ ?) | 1887-1891 | 過渡期 | 小林鉄次郎 | 歴史/明治風俗 |

| 外題 | 作品点数 | 版行年 | 前半・ 後半期 | 版元 | 分類 |
|------------|--------|-----------|------------|-------------------------------------------------------|----------------|
| 『当春姿見鏡』 | 5 | 1887 | 過渡期 | 井上茂兵衛 | 明治美人（花街） |
| 『今様東京八景』 | 8 | 1888 | 過渡期 | 長谷川園吉 | 明治美人／洋装美人 |
| 『開化美人鏡』 | 2 | 1888-1889 | 過渡期 | 森本順三郎 | 御所絵 |
| 『日光名所』 | 2 | 1888-1891 | 過渡期 | 森本順三郎 | 明治美人 |
| 『女礼式』 | 19 | 1888-1895 | 過渡期～ | 横山良八、横山国松、網島亀吉、武川卯之吉、福田初次郎、樋口銀太郎、小森宗次郎、辻岡文助、堤吉兵衛、武川清吉 | 明治美人／美人大奥／明治風俗 |
| 『東風俗年中行事』 | 12 | 1889 | 過渡期 | 長谷川園吉 | 大写美人 |
| 『松乃栄』 | 2 | 1889 | 過渡期 | 尾関トヨ | 徳川時代 |
| 『温故東の花』 | 7 | 1889 | 過渡期 | 江川八左衛門 | 徳川時代 |
| 『東風俗福つくし』 | 30 | 1889-1890 | 過渡期 | 武川卯之吉 | 明治美人／明治風俗 |
| 『二十四孝見立図合』 | 24 | 1889-1890 | 過渡期 | 長谷川常次郎 | 明治美人／明治風俗／他 |
| 『幻燈写心鏡』 | 18 | 1889-1890 | 過渡期 | 横山良八 | 明治美人／洋装美人 |
| 『江戸風俗十二ヶ月』 | 12 | 1889-1890 | 過渡期 | 横山良八 | 江戸風俗 |
| 『馬琴著述』 | 10（＋？） | 1891-1892 | 過渡期 | 森本順三郎 | 歴史 |
| 『あづま鑑』 | 3（＋？） | 1892 | 過渡期 | 村上剛 | 歴史／明治風俗 |
| 『倭風俗』 | 3 | 1892-1893 | 過渡期 | 森本順三郎 | 明治美人 |
| 『西園雅集』 | 4 | 1892-1894 | 過渡期 | 長谷川園吉 | 明治美人 |
| 『やまと風俗』 | 3 | 1892-1894 | 過渡期 | 森本順三郎 | 明治美人／明治風俗／美人上代 |
| 『四季遊』 | 2 | 1893 | 過渡期 | 松木平吉 | 明治美人 |
| 『見立十二支』 | 12 | 1893 | 過渡期 | 森本順三郎 | 明治美人／明治風俗 |

後半期

| | | | | | |
|-------------|----|-----------|-----|------------|------|
| 『日本名女咄』 | 15 | 1893-1894 | 後半期 | 武川清吉 | 歴史 |
| 『四季の詠』 | 5 | 1894-1895 | 後半期 | 樋口銀太郎 | 明治美人 |
| 『千代田之大奥』 | 40 | 1894-1896 | 後半期 | 福田初次郎 | 美人大奥 |
| 『徳川時代貴婦人之図』 | 39 | 1894-1898 | 後半期 | 長谷川常次郎 | 美人大奥 |
| 『日清戦争図絵』 | 2 | 1894 | 後半期 | 牧金之助 | 日清戦争 |
| 『日清戦争之内』 | 3 | 1895 | 後半期 | 樋口銀太郎、堤吉兵衛 | 日清戦争 |

| 外題 | 作品点数 | 版行年 | 前半・後半期 | 版元 | 分類 |
|----------------|-----------------|-----------|--------|---------------------------------------|----------------------|
| 『日清戦争+記・画・之図』 | 7 | 1895 | 後半期 | 樋口銀太郎, 井上茂兵衛, 堤吉兵衛, 牧金之助, 綱島亀吉, 三宅半四郎 | 日清戦争 |
| 『四季花狂言見立』 | 11 (+ ?) | 1895 | 後半期 | 辻岡文助 | 明治美人 |
| 『今様の美人』 | 6 | 1895 | 後半期 | 長谷川寿美 (2) | 明治美人 |
| 『花鳥風月』 | 3 | 1895 | 後半期 | 横山良八 | 明治美人 |
| 『花鳥風月』 | 2 | 1895 | 後半期 | 松木平吉 | 歴史 |
| 『園中のもみぢ・うめ』 | 2 | 1895 | 後半期 | 牧金之助 | 明治美人 |
| 『婦人風俗鏡』 | 13 | 1895-1896 | 後半期 | 福田初次郎 | 明治美人 |
| 『松竹梅』 | 3 | 1895-1896 | 後半期 | 小森宗次郎 | 明治美人 |
| 『婦人諸礼式之図』 | 11 | 1895-1905 | 後半期 | 勝木吉勝 | 明治美人/美人大奥 |
| 『時代かがみ』 | 50 | 1896 | 後半期 | 松木平吉 | 大写真 |
| 『あづま』 | 24 | 1896 | 後半期 | 福田初次郎 | 明治美人 |
| 『七曜之内』 | 2 (+ α) | 1896 | 後半期 | 長谷川園吉 | 明治美人 |
| 『今とむかし』 | 2 (+ ?) | 1897 | 後半期 | 長谷川常次郎 | 明治美人 |
| 『美人観桜・梅・菊之図』 | 3 | 1897-1898 | 後半期 | 樋口銀太郎, 坂口忠治郎 | 明治美人 |
| 『(後期) 雪月花』 | 36 | 1897-1901 | 後半期 | 松木平吉 | 明治美人/子供家族/明治風俗/花街/歴史 |
| 『竹のひと節』 | 14 (+ ?) | 1897-1905 | 後半期 | 松木平吉 | 歴史 |
| 『日本歴史教訓画』 | 5 | 1897 | 後半期 | 綱島亀吉 | 武者 |
| 『千代田之御表』 | 32 | 1897 | 後半期 | 福田初次郎 | 徳川時代 |
| 『真美人』 | 36 | 1897-1901 | 後半期 | 秋山武右衛門 | 大写真 |
| 『名勝美人会』 | 12 | 1898 | 後半期 | 松木平吉 | 明治美人 |
| 『十二月之内』 | 3 (+ α) | 1898 | 後半期 | 近藤常吉 (2) | 明治美人 |
| 『教育日本歴史』 | 24 | 1898-1899 | 後半期 | 福田初次郎 | 武者 |
| 『あづま [安津末] 風俗』 | 12 | 1901 | 後半期 | 松木平吉 | 明治美人 |
| 『東京名所』 | 9 (+ ?) | 1901-1903 | 後半期 | 勝木吉勝 | 明治美人/明治風俗 |
| 『江戸錦』 | 46 (+ ?) | 1902-1904 | 後半期 | 松木平吉 | 美人大奥 |
| 『あ付ま美人』 | 3 | 1903-1904 | 後半期 | 並川善六, 勝木吉勝, 松木平吉 | 明治美人 |
| 『幼稚苑』 | 12 | 1905 | 後半期 | 松木平吉 | 子供家族 |
| 『美術東錦絵 十二ひと絵』 | 12 | 1906 | 後半期 | 奈良沢健次郎 | 美人大奥 |

て取れる。後半期に『日清戦争』『明治美人』『美人大奥』『大写真』が多いことも見て取れよう。そもそも、「揃物」が周延作品の半数近い規模である以上、作品全体の傾向を一定程度反映するのは自然なことである。

全体分析による判断とは異なり、いわば各論である本稿において特に指摘すべき点があるとすれば、2点ある。

1. 「役者絵」や「洋装美人」には揃物がまったくないため、それらは【表4】の前半期に反映されていない。また、「憲法」「議会」「二重橋」などについても同じことがいえる。

2. 【表4】では「歴史」が前半期に限らず、過渡期や後半期にも出現している。これは、前稿でも指摘したとおり、個別には「版行年不明」として扱われていた『教育日本歴史』『本朝武勇鑑』や『日本名女咄』『竹のひとつ節』などが、揃物として年代を推定されてカウントされていることによる。この意味では、「歴史」については、前半期に限らず、後半期にも描かれていることを認め、前述の定式化について微修正を行う必要のある唯一の点かもしれない。

他方で、明治24～25年（1891～1892）の作品数の少なさは、揃物においてもその傾向を見て取ることができる。

ここで注目するに値するのは、【表4 楊洲周延・時期区分（前半期・過渡期・後半期）による揃物分類】の過渡期における版元である。【表3 楊洲周延・過渡期版元の特徴】にみられる長谷川常次郎、森本順三郎、長谷川園吉、横山良八、武川卯之吉、江川八左衛門らの名前が遍く現れている。特に、森本順三郎と長谷川園吉が顕著である。そして、この過渡期に、「明治美人」「大写美人」「徳川時代」「江戸風俗」「美人大輿」などの作品が生まれてくることも見て取れる。総じて、揃物の分析が示す実態は、全体的な分析との間で、大きな齟齬を見せていないということができよう。

強調し・確認しておくべき点があるとすれば、揃物を持たなかった「洋装美人」「役者絵」は、揃物の分析では姿を見せない。また、「二重橋」や「憲法」「議会」などのシリーズも同じ傾向を見せる点である。

三、分類項目内における「揃物」間の比較考察：「徳川時代」など

作品点数で周延作品の約半数におよぶ揃物だが、同じ分類項目に属する似通った内容の揃物に注目することで、前半期・過渡期・後半期にまたがる傾向や共通性を探るよすがとすることは可能である。【表5 楊洲周延・分類項目別の揃物概観】を参照されたい。

ここでは、暫定的に、上位レベルの分類項目として、「東京名所」「花街」「御所絵」「武者」「歴史」「江戸風俗」「徳川時代」「明治美人（1）」「明治美人（2）」「大写美人」「美人大輿」「江戸・明治渾然一体」の12項目を仮定してみた。

「東京名所」には『東京花競』『東京名所競』『今様東京八景』『東京名所』の4揃物が含まれる。

「花街」には『廓花全盛競』『名誉色咲分』『全盛廓』『当春姿見競』の4揃物が含まれる。

「御所絵」には『東姿 四季の詠』『花姿美人揃』『今様美人鏡』『開化美人競』の4揃物が含まれる。

「武者」には『英銘武将之図』『本朝武勇鑑』『日本歴史教訓画』『教育日本歴史』の4揃物が含まれる。

「歴史」には『(前期) 雪月花』『源平盛衰記』『東錦昼夜競』『馬琴著述』『日本名女咄』『竹のひと節』などの6揃物が含まれる。

「江戸風俗」には『江戸砂子年中行事』『江戸風俗十二ヶ月』の2揃物が含まれる。

「徳川時代」には『松乃栄』『温故東の花』『千代田之御表』の3揃物が含まれる。

「明治美人（1）」には『東風俗福つくし』『二十四孝見立図合』『幻燈写心競』『やまと風俗』『四季遊』『見立十二支』『四季花狂言見立』『四季の詠』『今様の美人』『花鳥風月』『松竹梅』『七曜之内』『今とむかし』『美人観桜・

表5 楊洲周延・分類項目別の揃物概観

| 外題 | 作品点数 | 版行年 | 前半・ 後半期 | 版元 | 分類 |
|----|------|-----|------------|----|----|
|----|------|-----|------------|----|----|

東京名所

| | | | | | |
|----------|-------|-----------|-------------|--------------------------------|---------------|
| 『東京花競』 | 20 | 1879 | 前半期 | 林吉蔵 | 明治風俗 |
| 『東京名所競』 | 8 | 1879-1896 | 前半期～ 過渡期 | 三浦武明(3)、山村 鑢次郎(4)、井上茂 兵衛 | 明治風俗 |
| 『今様東京八景』 | 8 | 1888 | 過渡期 | 長谷川園吉 | 明治美人／洋装 美人 |
| 『東京名所』 | 9(+?) | 1901-1903 | 後半期 | 勝木吉勝 | 明治美人／明治 風俗 |

花街

| | | | | | |
|---------|----|-----------|-------------|-------------------------------------|---------|
| 『廓花全盛競』 | 2 | 1879-1889 | 前半期～ 過渡期 | 森本順三郎 | 花街 |
| 『名誉色咲分』 | 30 | 1883-1884 | 前半期 | 小林鉄次郎 | 花街 |
| 『全盛廓』 | 5 | 1883-1888 | 前半期 | 小林鉄次郎、松野定 七、並川善六、大島 富三郎、長谷川園吉 | 花街 |
| 『当春姿見競』 | 5 | 1887 | 過渡期 | 井上茂兵衛 | 明治美人／花街 |

御所絵

| | | | | | |
|-----------|---|-----------|-----|-------|-----|
| 『東姿 四季の詠』 | 8 | 1879-1881 | 前半期 | 松下常信 | 御所絵 |
| 『花姿美人揃』 | 4 | 1881-1885 | 前半期 | 小宮山昇平 | 御所絵 |
| 『今様美人鏡』 | 2 | 1881 | 前半期 | 波多野常定 | 御所絵 |
| 『開化美人鏡』 | 2 | 1888-1889 | 過渡期 | 森本順三郎 | 御所絵 |

武者

| | | | | | |
|-----------|----|-----------|-----|-------|----|
| 『英銘武将之図』 | 3 | 1880 | 前半期 | 三浦武明 | 武者 |
| 『本朝武勇鑑』 | 20 | 1882 | 前半期 | 綱島亀吉 | 武者 |
| 『日本歴史教訓画』 | 5 | 1897 | 後半期 | 綱島亀吉 | 武者 |
| 『教育日本歴史』 | 24 | 1898-1899 | 後半期 | 福田初次郎 | 武者 |

歴史

| | | | | | |
|------------|--------|-----------|-----|-------|----|
| 『(前期) 雪月花』 | 50 | 1884-1885 | 前半期 | 小林鉄次郎 | 歴史 |
| 『源平盛衰記』 | 15 | 1885 | 前半期 | 綱島亀吉 | 歴史 |
| 『東錦昼夜競』 | 50 | 1886 | 前半期 | 小林鉄次郎 | 歴史 |
| 『馬琴著述』 | 10(+?) | 1891-1892 | 過渡期 | 森本順三郎 | 歴史 |
| 『日本名女咄』 | 15 | 1893-1894 | 後半期 | 武川清吉 | 歴史 |
| 『竹のひと節』 | 14(+?) | 1897-1905 | 後半期 | 松木平吉 | 歴史 |

| 外題 | 作品点数 | 版行年 | 前半・後半期 | 版元 | 分類 |
|----|------|-----|--------|----|----|
|----|------|-----|--------|----|----|

江戸風俗

| | | | | | |
|------------|----|-----------|-----|-------|-----------------------------|
| 『江戸砂子年中行事』 | 6 | 1885-1890 | 過渡期 | 森本順三郎 | 江戸風俗／美人 大奥／美人上代 ／徳川時代 |
| 『江戸風俗十二ヶ月』 | 12 | 1889-1890 | 過渡期 | 横山良八 | 江戸風俗 |

徳川時代

| | | | | | |
|----------|----|------|-----|--------|------|
| 『松乃栄』 | 2 | 1889 | 過渡期 | 尾関トヨ | 徳川時代 |
| 『温故東の花』 | 7 | 1889 | 過渡期 | 江川八左衛門 | 徳川時代 |
| 『千代田之御表』 | 32 | 1897 | 後半期 | 福田初次郎 | 徳川時代 |

明治美人（1）

| | | | | | |
|--------------|----------|-----------|-----|-------------|----------------|
| 『東風俗福つくし』 | 30 | 1889-1890 | 過渡期 | 武川卯之吉 | 明治美人／明治風俗 |
| 『二十四孝見立図合』 | 24 | 1889-1890 | 過渡期 | 長谷川常次郎 | 明治美人／明治風俗／他 |
| 『幻燈写心鏡』 | 18 | 1889-1890 | 過渡期 | 横山良八 | 明治美人／洋装美人 |
| 『やまと風俗』 | 3 | 1892-1894 | 過渡期 | 森本順三郎 | 明治美人／明治風俗／美人上代 |
| 『四季遊』 | 2 | 1893 | 過渡期 | 松木平吉 | 明治美人 |
| 『見立十二支』 | 12 | 1893 | 過渡期 | 森本順三郎 | 明治美人／明治風俗 |
| 『四季花狂言見立』 | 11 (+ a) | 1895 | 後半期 | 辻岡文助 | 明治美人 |
| 『四季の詠』 | 5 | 1894-1895 | 後半期 | 樋口銀太郎 | 明治美人 |
| 『今様の美人』 | 6 | 1895 | 後半期 | 長谷川寿美他 | 明治美人 |
| 『花鳥風月』 | 3 | 1895 | 後半期 | 横山良八 | 明治美人 |
| 『松竹梅』 | 3 | 1895-1896 | 後半期 | 小森宗次郎 | 明治美人 |
| 『七曜之内』 | 2 (+ a) | 1896 | 後半期 | 長谷川園吉 | 明治美人 |
| 『今とむかし』 | 2 (+ ?) | 1897 (?) | 後半期 | 長谷川常次郎 | 明治美人 |
| 『美人観桜・梅・菊之図』 | 3 | 1897-1898 | 後半期 | 樋口銀太郎、坂口忠治郎 | 明治美人 |
| 『十二ヶ月之内』 | 3 (+ a) | 1898 | 過渡期 | 近藤常吉 (2) | 明治美人 |

明治美人（2）

| | | | | | |
|------------|----|-----------|-----|-------|----------------------|
| 『あづま』 | 24 | 1896 | 後半期 | 福田初次郎 | 明治美人 |
| 『(後期) 雪月花』 | 36 | 1897-1901 | 後半期 | 松木平吉 | 明治美人／子供家族／明治風俗／花街／歴史 |

大写美人

| | | | | | |
|-----------|----|------|-----|-------|------|
| 『東風俗年中行事』 | 12 | 1889 | 過渡期 | 長谷川園吉 | 大写美人 |
| 『時代かがみ』 | 50 | 1896 | 後半期 | 松木平吉 | 大写美人 |

| 外題 | 作品点数 | 版行年 | 前半・後半期 | 版元 | 分類 |
|---------|------|-----------|--------|--------|------|
| 『真美人』 | 36 | 1897-1901 | 後半期 | 秋山武右衛門 | 大写美人 |
| 『名勝美人会』 | 12 | 1898 | 後半期 | 松木平吉 | 明治美人 |

美人大奥

| | | | | | |
|---------------|----------|-----------|-----|--------|------|
| 『千代田之大奥』 | 40 | 1894-1896 | 後半期 | 福田初次郎 | 美人大奥 |
| 『徳川時代貴婦人之図』 | 39 | 1894-1898 | 後半期 | 長谷川常次郎 | 美人大奥 |
| 『江戸錦』 | 46 (+ a) | 1902-1904 | 後半期 | 松木平吉 | 美人大奥 |
| 『美術東錦絵 十二ひと絵』 | 12 | 1906 | 後半期 | 奈良沢健次郎 | 美人大奥 |

江戸と明治が渾然一体

| | | | | | |
|----------------|---------|-----------|---------|----------------------------------------------------------------|----------------|
| 『雪月花之内』 | 8 (+ ?) | 1881-1897 | 前半期～後半期 | 柏木延一郎 (4), 大倉四郎兵エ (2), 長谷川常次郎 (1), 横山国松 (1) | 明治美人／美人大奥／御所絵 |
| 『女礼式』 | 19 | 1888-1895 | 過渡期～ | 横山良八, 横山国松, 網島亀吉, 武川卯之吉, 福田初次郎, 樋口銀太郎, 小森宗次郎, 辻岡文助, 堤吉兵衛, 武川清吉 | 明治美人／美人大奥／明治風俗 |
| 『婦人風俗鏡』 | 12 | 1895-1896 | 後半期 | 福田初次郎 | 明治美人 |
| 『婦人諸礼式之図』 | 11 | 1895-1905 | 後半期 | 勝木吉勝 | 明治美人／美人大奥 |
| 『あづま [安津末] 風俗』 | 12 | 1901 | 後半期 | 松木平吉 | 明治美人 |

梅・菊之図』『十二ヶ月之内』の15揃物が含まれる。

「明治美人 (2)」には『あずま』『(後期) 雪月花』の2揃物が含まれる^[6]。

「大写美人」には『東風俗年中行事』『時代かがみ』『真美人』『名勝美人会』の4揃物が含まれる。

「美人大奥」には『千代田之大奥』『徳川時代貴婦人之図』『江戸錦』『美術東錦絵 十二ひと絵』の4揃物が含まれる。

「江戸・明治渾然一体」には『雪月花之内』『女礼式』『婦人風俗鏡』『婦人諸礼式之図』『あづま [安津末] 風俗』の5揃物が含まれる。

これら12項目の上位分類項目にまとめた各揃物の間には、モチーフの共通性があるだけに、有意味な比較、影響関係、継承関係などを探るのに

役立つ。

ただ、前半期から後半期まですべての時代にまたがっているのは、「東京名所」と「武者」「歴史」だけである。これはこの三つの分類項目が、周延の生涯にわたるモチーフにとって定番的なものだったことを意味するのかもしれない。

他方、「花街」と「御所絵」は、期間の点でもほぼ同じく前半期に集中しており、変遷というよりは、共時的な比較に止まざるをえない。「江戸風俗」が過渡期限定である一方、「大写真美人」「美人大輿」は後半期限定という性格をもつ。その意味では、周延作品全般の傾向をそのまま示している。また、「美人大輿」に属す揃物は4種類、100点を超えるので、全て後半期の作品で時間的には短いものの、モチーフの同一性や類似性など指摘できることは多い^[7]。

これらの作品群は、時代を超えるものもあれば、特定の時期に集中しているものもあるが、それらの条件を十分に踏まえて考えるなら、揃物間の有意味な比較が可能である。ただ、これら全ての揃物間の比較をおこなうことは、本稿の守備範囲を大きく超える。「社会科学的考察」と銘打つ以上、それに一番身近なのは「徳川時代」であり、ここでは最後にこの分類項目についてのみ分析をおこなうこととする。

筆者の設定した分類項目には、「徳川家」と「徳川時代」という江戸時代に関する2つがあり、前者が家族としての徳川家、あるいは徳川氏の個々の人物を取りあげたものであるのに対し、後者はレジームとしての徳川時代を描いたもの、というのが筆者の分類基準である。「徳川時代」という分類に属する揃物は『松乃栄』『温故東の花』『千代田之御表』の3種である。【表6 揃物作品間の相関（1）：「徳川時代」】から知れるとおり、全部で7点ある『温故東の花』のうち、5点が『千代田之御表』とモチーフを共通させている。この比較から継承関係に注目するなら、『千代田之御表』は『温故東の花』の系譜に属すると位置づけることには、無理があるとは考えがたい。

表6 揃物作品間の相関（1）：「徳川時代」

| 『松乃栄』（1889） | 『温故東の花』（1889） | 『千代田之御表』（1897） |
|-----------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------|
| | 旧正月元旦諸侯初登城ノ図 [0185] [1500] | 正月元旦諸侯登城御玄関前之 図 [0475] |
| 松乃栄 安政二年十月二日 大 地震震ヶ関様御立退之図 [0299] | 旧失火之際奥方御立退之図 [0339] [1551] 註 | |
| | 第三篇 旧幕府御大禮之節 町 人御能拝見之図 [0186] [1552] | 御大禮之節町人御能拝見 [1114] |
| | 第五篇 將軍家於小金原御猪狩 之図 [0761] [1554] | 小金原牧将立場之図 [0103], 小金原牧将ノ図 [無所蔵] |
| | 第六篇 旧諸侯上野初御仏参之 図 [0713] [1555] | 上野御成 [0294] |
| | 第七編 將軍家於吹上而公事上 聴之図 [0595] [1556] | 於吹上公事上聴ノ図 [0088] |

註. 本図の主題は失火、『松乃栄』の方は地震と火災という違いがあるが、災害と避難という点で一定の共通性がある。

ところで、「徳川時代」分類項目に属する作品に、揃物ではない単独の作品として「文久三年 賀茂神社行幸將軍供奉之図」（明治21年 [1888], 版元：綱島亀吉, [1512]）がある。この図は、文久3年（1863）3月、攘夷祈願のために賀茂社と石清水八幡宮へ行幸する孝明天皇を描いたものであるが、天皇の鳳輦に対し將軍家茂一行がその後ろに随従する（供奉）という構図が取られている。この位置関係は現実を描いたものであり、しかも天皇の姿は見えないのに対し、將軍の姿は可視化されている。翌年の『温故東の花』版行に1年先だって、幕府が尊皇だったことを示す作品が版行されている点で興味深い。

『温故東の花』は明治22年（1889）の作品であり、帝国憲法公布の年に版行されている。以前に言及したことだが、明治維新以降の近代日本社会に、さまざまな和解が成立したこの年、徳川時代をレジームとして回顧する作品群が、堂々と版行されるようになった^[8]。これが、筆者がこの揃物に見いだす意味である。そのモチーフは、ほぼそのまま、8年後に『千代田之御表』（明治30年 [1897]）に踏襲されている。もちろん、わずか7点の小規模揃物である前者にくらべ、後者は全32点の大規模揃物である

点で、内容はより総合的で包括的である。しかしながら、少なくとも、誰の主導であるかという点を除けば、この2つの揃物を「徳川時代」という枠組みのなかでひとまとめにして考察することは、さほどの的外しているとはいえないであろう。この視点を確認できただけでも、『千代田之御表』を『千代田之大奥』との関係だけで語る視点を相対化することに貢献することが可能であると思われるのである。

むすびにかえて

本稿では、「揃物」の概念を少し緩やかに考えながら、シリーズをなす周延の作品について検討をおこなってきた。特に「小規模揃物群」の分類内容については、異論もありうるものかと考える。ただ、その点を自覚した上で、可能性のあるものを網羅し、検討しやすい整理をして提供しておくことにはポジティブな意味もある。「揃物」の可能性のある作品群に光を当て、検討しうる対象として留意を促せるからである。

本稿では、大規模揃物群は11組、中規模揃物群は21組、小規模揃物群は46組と想定することになった。したがって、揃物の総数は79組ということになる。大規模揃物群に属する作品総数は439点、中規模揃物群は312点、小規模揃物群は210点であり、何らかの揃物に属する作品の総数は961点と想定される。

このように、本稿の考究から、周延の「揃物」は、「大規模揃物群」や「中規模揃物群」に限っても、優に全作品の三分の一を超えることがわかった。「小規模揃物群」まで全て視野にいれば、明らかに周延作品の半数は、何らかの揃物に属していることになる。

正直、この数値は意外であった。揃物の総点数は予想を超えて遙かに多かったのである。相応の作品数があることは予想してはいたが、半数や三分の一を占めるほど大きな数値とは認識できていなかった。

この約「半数」という比率の重さは微妙である。周延の有名作品のなかに揃物の一部をなす作品は多いので、周延を語るのに揃物は不可欠だといえることができよう。他方、揃物だけで周延を語れるのかといえ、それにもわかには首肯しがたい。この約半数という数値は、まさに、揃物なしに周延は語れないこと、それと同時に、揃物だけでは周延を語れない、という絶妙なバランスを表してもいよう。

確かに、周延の揃物はかなり網羅的ではあるが、他方、そこからは明らかに「洋装美人」「憲法」「二重橋」「朝鮮」などの、揃物をもたない重要な作品群＝分類項目が抜け落ちている。また、別の視点から見れば、「花街」はそのほとんどの作品が揃物の一部である一方、「西南戦争」や「日清戦争」の揃物は、その分類項目のほんの一部でしかない。わずかの揃物から、西南戦争や日清戦争の作品群全体を論じることにも無理がある。

本稿ではまた、『女礼式』『雪月花之内』『東京名所競』などの幾分か詳細な検討をへて、揃物と非揃物との境界にある作品についても、一定の考察をおこなうことができた。

本稿はまた、中規模揃物群と過渡期との関係を、版元をも視野にいれつつ、より明快に明示することになった。この問題については、「版元」に関する別稿を準備中であるので、そこでさらに詳論することとしたい。

最後に、揃物を分類項目に応じて整理することで、時代を超えた作品間の比較考察の可能性が見いだされた。一点一点の作品間の比較は容易であるし、ピンポイントで比較対象を選べば、より有効な比較が可能かもしれない。しかし、本稿のような形で、揃物同士を系列的に並列して扱うことで、最も理想的とはいかないまでも、総論的な比較をおこない、おおよそのイメージを形作ることには別の意義がある。それは、直接的な比較にはならないまでも、考察のヒントとなるような緩やかな認識枠組みを提供してくれることにつながると考えられる。こうした本稿の個別の成果が、周延の全体像解明と、社会科学的認識の進捗に対し、一定の貢献となることを期待できれば幸いである。

註

- [1] 「揃物」の分類とその基準については、前稿「楊洲周延の全体像をもとめて（上）」（『法政理論』54巻3・4号、2022年3月、52-58頁）において素案を構想として提示した。本稿ではこの素案に整理・修正を加え、さらに、一覧表の形にまとめることができた。前稿の情報とは数値や認識にわずかな異同がある。異同がある場合には、本稿ではさらに数値の信頼度が向上している。
- [2] 日野原健司「【資料紹介】楊洲周延『東錦昼夜競』」（『太田美術館紀要 浮世絵研究』第2号、2012年3月、83-120頁）掲載の画像により確認をおこなった。
- [3] 『江戸錦』は43点という判断をしていたところ、「川崎浮世絵ギャラリー」の蛭田裕紀子氏より郡山市立美術館の塚本敬介氏にご紹介をいただき、画像のみによってはあるが、同館所蔵の「亀井家伝来資料」に含まれる周延作品の一部を拝見させて頂くこととなった。その際に、筆者未見の『江戸錦』作品3点を確認することができた。仲立ちを頂いた蛭田氏に感謝申し上げます。
- [4] 語り尽くされたかに見える『千代田之大奥』であるが、順番をつけようとすると直ぐに困難に突き当たる。斜め書きを主体とした同画帖の「目録」では、どこが始まりかはある程度断定に依らざるをえず、複数の順番の付け方が可能となる。また、版行年で並べればまったく違う順序になる（この場合は、『大奥』中屈指の名品である「御花見」が最初になり極めて自然な感じがしないでもない。ちなみに、筆者の解釈で「目録」順に並べると「御花見」は26番目になってしまう）。美術館によっては、季節と行事を判断材料に独自の整理をしているケースもあるようである。
- [5] 「楊洲周延の全体像をめぐって」『浮世絵芸術』No.183、2022年、13頁
- [6] この2揃物はいずれも1枚続で、後半期の「明治美人」を代表する瀟洒な揃物であり、特別に区別して扱う必要があると考えた次第である。
- [7] 『千代田之大奥』『徳川時代貴婦人之図』『江戸錦』『美術東錦絵 十二ひと絵』間の相互関係については、【表7 揃物作品間の相関（2）：「美人大奥」】を参照されたい。相対的には、『徳川時代貴婦人之図』と『江戸錦』との間の相関性が高いが、総じていえば、版行年から考えてもまさに『江戸錦』こそが「美人大奥」系の集大成という位置をもつものかもしれない。「美人大奥」については、後半期の典型であるといえるが、1870年代作と推定される初期肉筆画の「（夜桜）」や「（蛭）」（いずれも仮題）の存在に鑑みると、周延のモチーフの中では、もっと早くにその起源をもとめうる可能性が存在する。その意味でも、この肉筆画8点の発見は貴重である。なお、『千代田之大奥』と『江戸錦』の間には、「船遊び」「ほたる」「お庭歩き」（そ

れぞれ [0104] [0006] [0127] と [3046] [3138] [3035] など、まったく同じ画題の作品も存在する。もっとも、これらの作品の実際の画面にはあまり類似性を感じることができない。

【8】「楊洲周延の全体像をめぐって」『浮世絵芸術』No.183, 2022年, 15-16頁

表7 揃物作品間の相関 (2): 「美人大奥」

| | | | | | |
|-------------------------|----------------------------|----------------------------------|----------------------|------------------------|---------------------------------------------|
| 『千代田之大奥』 (1894-1896) | 『徳川時代貴婦人之図』 (1894-1898) | 『婦人諸礼式之図』 (1895-1905) | 『江戸錦』 (1902-1904) | 『美術東錦絵十二ひと絵』 (1906) | その他・単独作品 |
| 歌合 [0001] | | | 歌あわせ [3135] | | |
| | お花見 [0095] | | 吹上のお花見 [3038] | 弥生の花見 [3021] | |
| 追ひ羽根 [0120] | | | おひ羽根 [3094] | | |
| 御花見 [0122] | 上野花見 [0081] | | | | |
| | 活花 [0050] | | 活花 [3033] | | |
| | (手鞠) [0325] | | 手まり [3031] | | |
| | (盆石) [1528] | | 盆石 [3089] | | |
| | | | 夜の梅 [3140] | | 『美人観梅之図』 [1793] (1897), [0750] (1898) |
| | | | はつゆき [3014] | | 『あづま同俗・第12図・(雪見)』 (1901) |
| 園中の雪 [0078] | | | | 師走乃むつの花 [3030] | |
| | | 婦人諸礼式之図 花よせ [0012] (1899) | 花よせ [3373] | | |
| | (盤双六) [1875] | | おりも [3044] | | |
| | 雛飾之図 [1976] | 婦人諸礼式之図 飛那 [0319] (1896) | | | |
| | 藤のさかり [0464] | | 浜御殿 [3093] | | |
| | 茶の湯 [0521] | 婦人諸礼式之図 茶乃湯 [0177] (版行年不明) | | | |

| | | | | | |
|-------------------------|----------------------------|--------------------------|----------------------|------------------------|------------------------------------------------|
| 『千代田之大奥』 (1894-1896) | 『徳川時代貴婦人之図』 (1894-1898) | 『婦人諸礼式之図』 (1895-1905) | 『江戸錦』 (1902-1904) | 『美術東錦絵十二ひと絵』 (1906) | その他・単独作品 |
| 琴 [0028] | | | 弾琴 [3219] | 葉月乃良夜 [3026] | |
| | | | 吹上の花菖蒲 [3037] | 皐月乃菖蒲 [3023] | |
| | 愛子の図 [0136] | | 愛児 [3134] | | |
| | 枝之鳥 [0520] | | | | 『婦人風俗鏡・第8図』 [3208] (1896) |
| お庭の夜桜 [0124] | | | 夜桜 [3374] | | 「(夜桜)・1870's 肉筆画」 [3383] |
| ほたる [0006] | | | | | 「(螢)・1870's 肉筆画」 [3384], 「別荘の螢」 [0140] (版行年不明) |

註1. () 内は仮題

註2. [数字] は所蔵番号, (数字) は版行年